



旧優生保護法による 被害者とともに歩む京都の会

結 成

- 1 「今後も被害者をサポートしていく」 木内哲郎弁護士
- 2 参加者全体でがんばろう!!
- 3 共同代表からメッセージ

9月28日(土) ウイングス京都にて開催、「旧優生保護法による被害者とともに歩む京都の会」が正式に結成されました。

この会は9つの団体から共同代表が選出され、当法人も参画し共に活動していきます。当日は2回の優生保護法問題を取り上げた映画『沈黙の50年』上映会、結成集会に249人の方が参加されました。チケット購入や寄付、当日参加いただきましたみなさま、ありがとうございました。

今後も引き続き、法人として京都の会の一員として、被害者の支援に取り組みます。



詳細はこちら



INDEX

- P2 城陽市ならではの取り組み
- P3 利用者の健康や楽しみを支える給食の取り組み
- P4 自分の聞こえに関心を
- P5 「京都 北から南まで」職員紹介
- P6 「お知らせ」「コラム 思う」

TOPICS 秋に集う!!

10月12日 開放日に210人参加
京都府聴覚言語障害センター



10月19日 いこいの村まつり
700人でにぎわう!!



聴覚障がい者のための 防災マニュアル

城陽市ならではの取り組み

聴覚障害者生活支援センターは「はーもにー」は城陽市障がい者自立支援協議会 聴覚言語障がい者支援部会（以下「聴言部会」）の部会長を以前から担っています。障害者自立支援協議会は各地域で開かれています。聴覚言語障害者に特化した部会があるのは全国的に見ても珍しいです。2011年から聴言部会が始まり、2024年秋には80回目の部会議を行いました。聴言



防災マニュアルの 見直しが完成！

聴言部会では、「城陽市聴覚障がい者防災マニュアル」を作成しています。3年前から見直しを行い、昨年度末に

部会は城陽市福祉課、はーもにー、ろうあ協会、難聴者協会、手話サークル、要約筆記サークル、手話通訳者会、要約筆記者会の市内の関係団体で構成されています。

マニュアルの 普及へ

防災マニュアルの見

2024年度版がようやく完成しました。避難場所や災害時の情報も掲載しています。さらに、災害時の持ち出しものに聴覚障害者専用の【補聴器・人工内耳や電池】を記載したり、「防災マニュアル」がコミュニケーションボードになるようページを追加しました（左図）。

直しが終わり、今後はその活用が課題です。しっかりと活用していただけるよう、当事者団体はもちろん、はーもにーにいられた方や市役所窓口へ行かれた方で必要な方には積極的にお渡しをしています。また、民生委員や社会福祉協議会などにも市を通して

次は避難訓練の 実施を目指して

現在、聴言部会では作成したマニュアルを使って避難訓練をしてみようと話が進んでいます。聴言部会として、コ

配布しています。

コミュニケーションボード

食べ物・飲み物は配給されますか？

時間：
場所：

毛布・衣類
□ある
□ない

入浴・シャワー
□ある
□ない

トイレ（仮設トイレ）の場所はどこですか？

(15)

病気やケガの治療ができる場所はありますか？

常備薬（かぜ薬・胃薬・頭痛薬など）

メモ

(16)

シヨンや音声アナウンスの伝達方法など聴覚障害者に特化した避難訓練を行うことで課題を再認識し、実際の災害時に役立てようと検討しています。

今後も聴言部会を活用し、より聴覚障害者が生活しやすい社会づくりを目指していきたいです。（南都市町村支援部 乾恵梨）

利用者の健康や楽しさを支える 給食の取り組み

京都市聴覚言語障害センター（以下センター）給食課では、障害者入所施設・通所施設・高齢デイサービスの利用者へ、毎日食事提供を行っています。

利用者にとって毎日の食事は大きな楽しみのひとつであり、健康を維持するために欠かせないものです。利用する方々の日々の嗜好や要望、健康状態などに基づいた、食事企画の取り組みにも力を入れています。



大人気の「天ぷら」



手軽な「お寿司の日」

食事企画の 取り組み紹介

毎月の行事食

日本の年中行事に合わせて月1回行事食の日を設けています。四季に合わせた旬の食材を使い季節感を味わってもらえる食事になっています。世代問わず「天ぷら」が一番人気です。

特別企画「お寿司の日」

3か月に1回、お寿司屋さん

んのお寿司を提供する特別企画。今ではデリバリーやテイクアウトでお店の味を手軽に楽しめる時代になりました。しかしそれらを活用することが難しい利用者もいらつしています。そんな方にもお店で食べる味を楽しんでもらえるように、今年度から始めました。普段は給食を利用しない方々もこの日を楽しみに食堂に集まってくれます。

「にじ」の子どもたちの リクエストメニュー

「いいにおい！」と子ども達の元気いっぴいな声が食堂にひびきわたりました。

夏休みにセンターを訪れた京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」の子ども達総勢13名にも学校給食とは違うセンターの給食を楽しんでもらおうと、みんなのリクエストをぎゅっと詰め込んだ「T.H.Eお子様ランチ」を提



一緒に「いただきます！」

食を考える

供しました。お子様ランチと言えば「旗」。みんな旗を見て大はしゃぎしながらモリモリ食べてくれました。

先日、入所施設若木寮利用者の自治会「若木会」から食事についての意見をまとめた要望書をいただきました。日々の会話から出た食べたいものや嗜好を考慮し、可能な限り献立に反映させています。今回要望書に書かれていたメニューを見ると、日常的に献立に取り入れられているものもありました。

め、「毎日カレーが食べたい」「今日は暑いから冷たい麺が食べたい」というようなその日その時の個々の思いに応えることに難しさがあります。そのような制限のある中でも思いに添えていくために、誕生日に好きなメニューをリクエストできる「リクエストにおこたえデー」を設けることにしました。自分の希望がメニューに反映されていることをより実感してもらうことができると考えています。満足度の高い食事提供をどう作り上げていくか、そのあり方を試行錯誤しながら日々探求しています。

（総務部 淵上みゆき）



旗に気分も上々！

自分の聞こえに関心を

高齢者難聴は仕方ない？

皆さん、ご自分の聴力
ご存じですか？

いこいの村では、毎月第3木曜日の午後「耳の相談日」として、京都補聴器センターの方が来られ、補聴器の調整や聞こえの相談を行っています。毎月平均して5〜6名、多い時は8名ほどの相談があります。また、相談は本人より周りの家族が心配して連れてくるというケースが比較的多いです。

ところで皆さん、ご自分の「聴力」はどのくらいかご存じですか。目や歯は調子が悪くなったたら病院に行く人は多いですが、耳も同じように聞こえの調子が悪くなったたら病気が潜んでいないか見てもらうなど対策が必要です。

また、眼鏡をかけている方なら経験はあると思います。が、度数を変えた時、よく見えるが、慣れるまではしばらく目が疲れるという経験はあ

りません。補聴器も同じで、聞こえにくい状況から急によく聞こえる状態になると、耳や脳が疲れます。補聴器も訓練や調整が必要なので、補聴器になかなか慣れずあきらめることになった方もたくさんおられます。

社会参加は フレイル予防の第一歩

耳が聞こえにくくなると、大勢が集まる場所に行くのが億劫になる方が多いと思



耳の相談日の様子。「最近、周りの声が聞こえにくくなったんやけど…」

ます。行事にお誘いしても「あまり聞こえないし」と断られる方もあります。

外に出ない↓足腰弱る↓刺激がない↓認知力の低下とながることは、フレイル予防の観点からすでに言われているとおりです。聞こえにしっかりと意識を向けて、はつらつとした生活を送ることにつながるようにするには、聞こえがしっかりと保障されていることが大切です。いこいの村のデイサービスでは、朝の会で要約筆記もしながら今日一日の流れを説明し、情報保障をすることが当たり前になっています。

聞こえの保障は補聴器だけでなく、自分の耳の状況やニーズに応じて補聴手段を変えていくことも必要です。自分の聞こえに合わせ、補聴器以外にも筆談、対話支援機器、文字おこしアプリ、電話拡声器（受話器に取り付ける）などがあります。加えて、聞こえないことに遠慮も我慢もせず、「もう一度お願いします」「書いてもらえますか？」と気軽に言える社会が必要です。どこにいても合理的配慮が当然の環境を作っていく働

きかけも必要です。

「どの場所で聞こえると私の生活、楽しくなるのかな？」と考えてもらえるように、聞こえの内容が分かるだけで楽

しみが増えることを多くの人に知ってもらい、ご自分の聞こえに関心を持ってもらえるよう活動していきます。

（高齢福祉部 山本有美）

～笑顔でるるるるぶ～ 集まる・しゃべる・食べる・感じる・学ぶ

いこいの村まつり2024

10月19日（土）、700名の方に来ていただき、いこいの村まつりを開催することができました。朝から大雨でしたが、オープニング太鼓の演奏が雨雲を吹き飛ばしてくれ、まつりの間はほとんど雨がやみ、楽しんでいただきました。38名のボランティアの皆様、出店、舞台発表をしてくださった皆様、ありがとうございました。



綾部市長
山崎善也様



梅の木寮（年輪の会）のステージ



竹切競争

京都 北から南まで

綾部市聴覚言語障害者支援センター



9月23日は
手話言語の国際デー

毎年9月23日は国連総会で決議された「手話言語の国際デー」です。この日、綾部市市民センターが、世界平和を表すブルーの光でライトアップされ、京都府北部地域では、初めての取り組みとなりました。（同日、京都府センター、京都市センター、いこいの村センターでもライトアップ・看板表示を行いました。）



及び多様なコミュニケーションの促進に関する条例」が施行され6年が経過しています。点灯式では、聴覚障害者協会綾部支部野田和博支部長が「私たちは、生活のあらゆる場面で手話言語を使うことが保障されることで、人権と平等が守られた共生社会を実現することができます。市内ではまだまだ手話言語の普及が進んでいません。本日の取り組みを今年だけで終わることなく、市内の多くの場所が青色の光でつながり合える日にしたい。」と挨拶で述べられています。

綾部市聴覚言語障害者支援センターも聴覚障害者関係団体で構成する「あやベネットワーク」に参画しています。きこえない、きこえにくい方が安心して暮らしていける社会づくりをめざして、来年の9月23日には、市内の各地が青色の光でつながる日になるよう取り組みでいきます。

（綾部市聴覚言語障害者支援センター

今西永里）

職員紹介



京都府聴覚言語障害センター
情報提供施設第一部
情報提供事業課

加藤 佳奈（入職7年目）

2018年に入職し、今年7年目を迎えました。現在は、京都府聴覚言語障害センター情報提供施設の職員として働いています。

情報提供施設は全国にあり、主に相談、字幕・手話挿入映像の制作・貸出、手話通訳者の養成、派遣等を行っています。京都府聴覚言語障害センターは独自事業として、難聴者・難聴乳幼児のサポート事業、企業向け環境構築、研修、電話リレーサービス普及、パソコン・スマホ教室等、様々な事業を実施しています。

その中で、多くの事業に共通しているのは「ICT技術の活用」です。ICT技術の進歩は早く、聴覚障害者が日常生活や仕事で便利に使える機器やソフトが次々に開発・実用化されています。

聞こえに悩む方から仕事・趣味・家族との会話などの相談や、企業

から環境整備・合理的配慮について相談を受けることがあります。背景や必要なシーンによって違うため、画一的な答えがあるわけではありません。

私は、個人や企業等が持つ願いに対して、より実現しやすい選択肢を提示していきたいです。そのために必要な知識や価値観など、まだまだ勉強が足りないと日々感じています。多くの方が暮らしやすい社会の一端を担えるように、これからも学んでいきたいと思っています。

京都府聴覚言語障害センターでは、電話リレーサービスの相談、登録を窓口にて行っています。ぜひお越しください。

電話リレーサービス
説明会 & 登録会

12月10日 11:00～12:00 大山崎ふるさとセンター

1月20日 11:00～12:00 京都府聴覚言語障害センター

▼詳細は





暑い夏

理事長 高田 英一

今年の夏はことのほか暑い夏でした。毎日が暑くこの暑さがいつまで続くかと本当に心配させられました。毎日の新聞報道を見ても「史上最高の暑さ」「熱中症の危険」「終末期の酷暑」といった見出しが躍っています。

産業革命以来温度が1・5度近く上がり、地球温暖化の主な原因となる人間活動による二酸化炭素が増え続けています。それは世界各地で日常的に発生する記録的な酷暑、大雨、桁外れのハリケーン、大洪水、大干魃、結果として起こる食料飢饉に結びつきます。

二酸化炭素の増え続ける理由は化石燃料を中心とする電力需要です。それを代替するのはおぞましい原子力発電です。水力発電、太陽光発電、風力発電といった自然の再生力を利用したものもありますが非力です。現状のまま推移するなら遠からず地球は人間の住めないものとなることは疑いありません。

そんなことはお構いなしにロシアのウクライナ侵略、イスラエルのハマス、ヒズボラ等相手のパレスチナ戦争、その他のあちこちで起こる地域紛争と戦争の枚挙にいとまがありません。それらは間違いなく二酸化炭素の増加に貢献しているのです。

戦争は何よりも命を奪うという究極の人権の無視です。愚かな指導層にこの地球そのものが危機にあることを気づかせ、直ちに戦争をやめさせ、地球の危機を悟らせなければ地球はやがて住めなくなるでしょう。その危機は目前です。

パソコン教室

- ①11月27日 10:00～12:00
 - ②12月4日 10:00～12:00
 - ③12月20日 10:00～12:00
- 京都府聴覚言語障害センター



詳細はこちら

スマホ教室

- ①12月10日 13:00～16:00
大山崎ふるさとセンター
- ②1月20日 13:00～17:00
京都府聴覚言語障害センター



詳細はこちら

あなたの声が

聴言ニュースを作る！
～アンケートのお願い～

アンケートハガキ、ホームページ、QRコードにて法人事業本部 聴言ニュース担当までお寄せください。

アンケートフォーム

法人後援会
会員の状況2024年4月1日～9月30日
までにご加入394名 (新規 30名
継続 364名)

法人へのご寄付 敬称略

2024年7月1日～9月30日

地域	氏名	
中京区	浦野英子	ブランケット、紙エプロン、使い捨て安心シート、ケアシート
下京区	小畑タバサ	ハンディ掃除機、湯沸かしケトル、古タオル
伏見区	宮崎 茂	新米 20kg
中国	張文佳	寄附金 1,000円
—	匿名	血圧計 1台
—	匿名	包装紙、絹糸

第6回
京都府

耳のこつフェスタ

- 日時** 2025年2月1日
10:30～15:00 (講演 12:30～)
- 会場** 南丹市八木市民センター (京都府南丹市)
- 講師** 京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター
山崎 博司先生
タイトル：難聴医療のこれから～病院としての取り組み～
- その他** 機器体験ブース、飲食交流ブースなどあります



社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
法人事業本部 TEL(直通) (0774) 30-9003
京都府聴覚言語障害センター
TEL(0774) 30-9000(代) FAX(0774) 55-7708

京都市聴覚言語障害センター
TEL(075) 841-8336(代) FAX(075) 841-8311
いこいの村聴覚言語障害センター
TEL(0773) 46-0101(代) FAX(0773) 46-0610

ホームページ
はこちら詳しくは各事業所、またはホームページで <https://www.kyoto-chogen.or.jp/>